

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

畑～腐葉土への興味～／富田林市立錦郡幼稚園（大阪府）

みなさんの園では、野菜を育てていますか？
子どもたちが、土や畑に興味をもった時、どのような環境の工夫をされていますか？

腐葉土に出合った子どもたちが、自分たちで作れることを知り、益々興味を深めていく実践です。取り組みの過程では、地域の方から情報を得る機会、保護者と共に活動する機会、子どもの気付きを可視化するなどの保育の工夫が、子どもたちの「科学する心」の育ちを支えていることが読み取れます。



○ 腐葉土を作りたい／5歳児

✦ 12月中旬「この土なんか匂いがする！」

- 4歳児と一緒に、エンドウマメを植えることになった。腐葉土を混ぜて土作りから始めた。
- 子どもたちは、腐葉土を手に取り、「黒い土やなあ」「木が土の中に入っていた！」「根っこみたいなのがあるで」「この土なんか匂いする」「フワフワしてる」などと気づいたことを伝え合う姿があった。そして、「腐葉土ってなんだろう」という問いが出てきた。
- 以前に読んだ絵本『ふようどのふよこちゃん』（作・絵：飯野和好 / 出版社：理論社）を思い出しながら、「落ち葉の栄養が、土にいくから栄養たっぷりの土になるってことかな？」などと、腐葉土ができていく様子を自分なりに考えて話す姿があった。このような声が聞かれたので、「腐葉土って作れるみたいよ」と保育者がつぶやく。
- 子どもたちは、「えっ？自分たちで作れるの？」「やってみたい！」と驚き、興味をもった。



● 保育者の読み取り・大事にしたい姿や育てたいこと

- 「黒い土やなあ」というつぶやきから周りの子どもたちも、他の土との違いを感じ始め、目に留めて問う姿があった。1学期に、セミとの関わりから土の中の表現遊びになった土への興味が、12月になっても、子どもたちの中でつながっていることが分かった。
- 「腐葉土を自分で作れる」ということに興味をもつ。今まで、自分たちでいろいろと考え出した経験から「自分たちでできる！」という主体的な姿につながっていると思われる。

Aちゃんの“わくわく発見カード”と保護者からのメッセージ

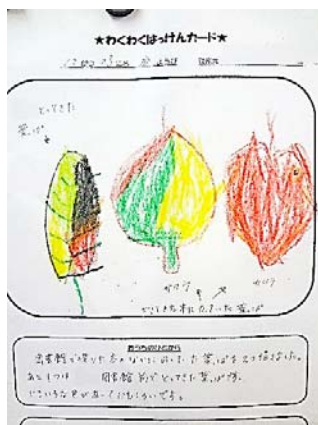


写真6

図書館で借りた本の中に載っていた葉っぱを2つ描きました。あと1つは、図書館前でとってきた葉っぱです。いろいろな葉っぱがあって面白いですね。



写真7

公園で拾ってきました。他の葉っぱには目を向けなくて、これだけを拾いました。とても気に入ったみたいで絵も描きました。

● 保育者の読み取り・大事にしたい姿や育てたいこと

- 保育者が先を急がずに、腐葉土の作り方をすぐに知らせなかったことが、Y児の知りたいという気持ちにつながったと思われる。
- 映像で知ったことを自分なりに咀嚼し、わかりやすく友達に絵や言葉で伝えている。
- 写真を見ながら、「雑草の根っこにも栄養があるから雑草も栄養になるのかなあ？」と、今までの経験を思い起こし予想する姿があった。まずは、自分なりの見方や考えに共感したり応答したりしてきたことで、「～だからこうかもしれない」と、自分なりの考えをまず伝えようとする姿が定着してきている。

✦ 1月中旬「腐葉土作り始まる！」

- 連携している近隣の大学の先生に、腐葉土を作る場所について教えていただいた。『日がよく当たる場所』『雨水もかかる場所』を目当てに、子どもたちとよく考えて穴を掘ることにした。
- 穴を掘り出すと、木の皮やセミの抜け殻があったり、根っこが張っていたりすることが分かった。また、「セミの幼虫の顔みたいやよ」「ウワー！セミの幼虫やー！」と、セミの幼虫が出てきことに子どもたちは驚いた。「根っこの近くにいる！」「やっぱり根っこの蜜を吸っているってことかなあ？」と考える。そのことを基に、掘る場所を考えている様子が伺える。
- 土を掘るとセミの幼虫が出てきたため、「年少さんに知らせよう」と呼びに行った。「来年の夏に出て来るかなあ」「来年やったら僕たち居ないで…」「でもまだ土の中かも…5年間土の中やもんな」「いつ入ったんやろ（土の中）」などと話していた。
- 4歳児が駆けつけると、「この場所をまちがえて掘らないようにしてほしい」ことを、5歳児は伝えていた。4歳児は、セミの幼虫の看板作りを始めた。その後、数日この場所を見に来る4歳児の姿があった。



● 保育者の読み取り・大事にしたい姿や育てたいこと

- 10月に昆虫館で、土の中のセミの幼虫を見たり、感じたりする体験をした。さらに、11月には、土の中のイメージを膨らませる遊びを創り出していた子どもたちは、今回、実際に土の中にいる幼虫に出会うことができた。土の中にいるセミの幼虫に出合った体験は、子どもたちだけでなく、保育者たちも子どもたちと同じように心を動かした。
- 自分の目で実際に確かめて感じたからこそ、「やっぱり根っこの蜜を吸っているってことかな」と言うつぶやきになったとを感じる。
- 4歳児が来年の夏、この場所でセミに出合った時には、どのようなつぶやきや関わりをするのだろうか。この体験を保育者もしっかり覚えておきたい。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」